

産婦人科

当科の方針と特徴

患者さんに良質の医療を提供すると共に、高度先進医療を含む高度医療も積極的に導入することを目指している。診療領域としては妊娠・分娩に関する周産期医療、婦人科良性及び悪性疾患に対する手術を中心とする婦人科医療、骨盤臓器脱を含めた女性ヘルスケア医療を取り扱っている。高度不妊治療に関しては地域のクリニックへのご紹介を含めた連携を行っている。

周産期医療に関しては、地域周産期センターとして、また大阪府産婦人科診療相互援助システム(OGCS)の準基幹病院として、年間約700の分娩を管理している。ほとんどを個室化して、プライバシーに配慮した環境で、小児科との連携を常に行いながら総合病院ならではの安全な分娩を目指している。

婦人科良性疾患に対しては、腹腔鏡や子宮鏡を用いた患者さんの身体に優しい鏡視下手術の適用を積極的に行っている。しかしながら高リスク症例に関しては術前カンファレンスで十分検討することにより術式を検討している。

悪性疾患に対しても機能温存を可能な限り考慮しているが、この場合根治性の担保を常に念頭に置き、術前カンファレンスで十分に討議して治療方針決定を行っている。子宮頸がんには、以前よりセンチネルリンパ節検索を用いた広汎性子宮全摘術、広汎性子宮頸部摘出術(トラケクトミー)を施行し良好な成績を得ている。また子宮頸がんに対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術を臨床研究を経て導入し、平成30年度からは保険診療での施行が可能となっている。子宮体がんに対しては保険算定の腹腔鏡下子宮体癌根治手術を施行するとともに、より広範囲のリンパ節郭清を要する症例に対しては高度先進医療による腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を開始している。放射線治療は放射線科とのカンファレンスを通じて、綿密な治療計画をたてている。抗がん剤治療は基本的には通院治療可能であり、腫瘍内科医との連携のもと外来化学療法室において十分な監視のもと施行している。また術後の合併症であるリンパ浮腫や排尿障害に対するサポート・治療が、看護師外来も含めてなされて効果をあげている。

女性骨盤外科分野は、メッシュ使用をとりやめ、従来からの骨盤臓器脱に対する治療を継続している。合併症や年齢に応じた治療が選択されて、高齢者の場合でも安全な治療となっている。骨盤臓器脱に対するペッサリー治療に関しては看護師主導の管理外来を開設しており、良好な治療定着率を得ている。

(a) 産婦人科スタッフ医師15名(平成30年12月31日現在)

医師名	卒業年	出身校名	着任年月日	身分
樋口壽宏	昭和62年	滋賀医科大学	平成29年5月1日	主任部長
吉岡弓子	平成11年	大阪市立大学	平成30年10月15日	副部長
関山健太郎	平成13年	京都大学	平成28年4月1日	副部長
奥田亜紀子	平成15年	大阪医科大学	平成30年8月1日	医員
辻なつき	平成17年	和歌山県立医科大学	平成19年4月1日	医員
小藺祐喜	平成18年	大分大学	平成25年4月1日	医員
秦さおり	平成20年	広島大学	平成28年4月1日	医員
山本瑠美子	平成20年	神戸大学	平成24年4月1日	医員
多賀敦子	平成21年	徳島大学	平成29年10月1日	医員
菅智美	平成25年	京都府立医科大学	平成30年4月1日	医員
濱田航平	平成27年	京都大学	平成30年4月1日	専攻医
芝本拓巳	昭和57年	鹿児島大学	平成19年10月1日	副部長(嘱託)
古山将康	昭和55年	大阪大学	平成17年10月1日	非常勤

(b) 臨床業績等(平成30年1月~12月)

総外来患者数：30,003人

総入院患者数：2,094人

総手術件数：962件(入院・外来問わず、小手術も含む)

病床数：52床(一部混合)

日本産科婦人科学会専攻医指導施設
 周産期専門医制度指定研修施設
 日本婦人科腫瘍学会指定修練施設
 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

(c) 平成30年産婦人科主要手術件数： 1,068 件（平成30年1月～平成30年12月）

婦人科手術		
手術名	件数	備考
広汎子宮全摘	14 件	腹腔鏡 4 件、腹式 10 件
広汎子宮頸部摘出	2 件	腹腔鏡 0 件、腹式 2 件
準広汎子宮全摘術	8 件	腹腔鏡 5 件、腹式 3 件
子宮体癌根治術	26 件	腹腔鏡 10 件、腹式 16 件
卵巣癌根治術	33 件	
その他悪性腫瘍手術	1 件	骨盤内除臓術 0 件、外陰癌手術 1 件
単純子宮全摘術	115 件	腹腔鏡 47 件、腹式 68 件、膣式 0 件
良性卵巣腫瘍手術	149 件	腹腔鏡 140 件、腹式 9 件
子宮外妊娠手術	16 件	腹腔鏡 14 件、腹式 2 件
子宮筋腫核出術	52 件	腹腔鏡 36 件、腹式 16 件
骨盤臓器脱手術	7 件	
子宮鏡	186 件	TCR32 件、子宮鏡検査 154 件
子宮頸部切除術	159 件	円錐切除 22 例、LEEP 手術 137 件
婦人科手術合計	785 件	
産科手術		
帝王切開	180 件	
頸管縫縮	7 件	
吸引分娩	39 件	
外回転	20 件	
流産手術	37 件	
産科手術合計	283 件	

(d) 産科実績（平成30年1月～平成30年12月）

総分娩数（22 週以降）：743件

帝王切開術：180件

NICU：有

母体外管理可能週数：妊娠 26 週以後

新生児に対する小児科の対応は、当直あり、24 時間常時対応可能。

(e) 学会発表、論文・著書

第 18 回産婦人科手術療法周術期研究会

平成 30 年 2 月 10 日 京都

「子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術後の再発症例の検討」

齋藤早貴、関山健太郎、高折彩、松岡麻理、多賀敦子、山本瑠美子、秦さおり、安堂有希子、自見倫敦、小菌祐喜、辻なつき、寺川耕市、樋口壽宏

第 32 回大阪温知会総会

平成 30 年 2 月 17 日 大阪

「帝王切開癒痕部妊娠の 2 症例」

多賀敦子

第 31 回きたの産婦人科セミナー

平成 30 年 3 月 17 日 大阪

「当院における骨盤位外回転術の検討」

山本瑠美子

第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会

平成 30 年 5 月 10 日～13 日 宮城

「Non-invasive positive pressure ventilation for preeclamptic women; 4 case reports」

Kohei Hamada, Yoshitsugu Chigusa, Eiji Kondoh, Yusuke Ueda, Shunsuke Kawahara, Haruta Mogami, Masaki Mandai

第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会

平成 30 年 5 月 10 日～13 日 宮城

「本邦における診断的円錐切除症例の検討」

山本瑠美子、多賀敦子、秦さおり、安堂有希子、小菌祐喜、辻なつき、関山健太郎、樋口壽宏

第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会

平成 30 年 5 月 10 日～13 日 宮城

「妊娠 14 週で広靭帯内発育する 15 cm 大の傍卵巣嚢胞を腹腔鏡下に摘出し得た一例」

菅智美、安本晃司、渡部光一、奈倉道和、中島正敬

第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会

平成 30 年 5 月 10 日～13 日 宮城

「当院における広汎子宮頸部摘出術症例の検討」

辻なつき、多賀敦子、山本瑠美子、秦さおり、安堂有希子、小菌祐喜、関山健太郎、樋口壽宏

第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会

平成 30 年 5 月 10 日～13 日 宮城

「MELF(microcystic, enlarged and fragmented)型浸潤を示す子宮体が低異型度類内膜腺癌 15 例の臨床的検討」

安堂有希子、多賀敦子、山本瑠美子、秦さおり、小菌祐喜、辻なつき、関山健太郎、樋口壽宏

第 138 回近畿産科婦人科学会学術集会

平成 30 年 6 月 10 日 大阪

「腹腔鏡下広汎子宮全摘術における糸による子宮牽引方法」

関山健太郎、高折彩、齋藤早貴、松岡麻理、多賀敦子、秦さおり、山本瑠美子、安堂有希子、小菌祐喜、自見倫敦、辻なつき、寺川耕市、樋口壽宏

第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

平成 30 年 8 月 4 日 松江

「これからの腹腔鏡手術を考える！～どこまで開腹の手術のクオリティーに近づけるか～」

(ランチョンセミナー11)

関山健太郎

第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

平成 30 年 8 月 4 日 松江

「腹腔鏡下広汎子宮全摘術における子宮牽引方法の工夫」

(ワークショップ 10)

関山健太郎

第 58 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

平成 30 年 8 月 2 日～4 日 松江

「子宮吊り上げによる手術を行った子宮筋腫の 1 例」

多賀敦子、山本瑠美子、秦さおり、安堂有希子、小菌祐喜、辻なつき、関山健太郎、樋口壽宏

第 32 回きたの産婦人科セミナー

平成 30 年 9 月 1 日 大阪

「癒着症例に対する腹腔鏡下手術の工夫」

関山健太郎、濱田航平、菅智美、多賀敦子、秦さおり、山本瑠美子、安堂有希子、辻なつき、奥田亜紀子、小菌祐喜、芝本拓巳、樋口壽宏

第 139 回近畿産科婦人科学会学術集会

平成 30 年 10 月 7 日（日） 大阪

「HBOC の遺伝カウンセリングから始まった当院の遺伝疾患診療体制」

辻なつき¹⁾、大瀬戸久美子²⁾、小松茅乃²⁾、吉本有希子²⁾、濱田航平¹⁾、菅智美¹⁾、多賀敦子¹⁾、秦さおり¹⁾、山本瑠美子¹⁾、安堂有希子¹⁾、小菌祐喜¹⁾、関山健太郎¹⁾、高原祥子²⁾、樋口壽宏¹⁾
北野病院 乳腺外科²⁾

日本人類遺伝学会第 63 回大会

平成 30 年 10 月 10 日（水）～13 日（土） 横浜

「HBOC 診療から始まった当院の遺伝疾患診療体制の立ち上げ～主に遺伝性腫瘍について～」

辻なつき¹⁾、大瀬戸久美子²⁾、小松茅乃²⁾、吉本有希子²⁾、高原祥子²⁾、樋口壽宏¹⁾
北野病院 乳腺外科²⁾

The 19th APAGE Annual Congress,

November 10th, 2018, Surabaya, Indonesia

「Surgical Anatomy in Nerve-Sparing Radical Hysterectomy」

Kentaro Sekiyama

論文・著書

「44 女性生殖器用薬」

治療薬ハンドブック 2018 薬剤選択と処方のポイント：じほう：pp821-824：2018 年 1 月

関山健太郎（共著）

「子宮周囲の解剖と広汎子宮全摘出術の工夫④」

産婦人科の実際：Vol.67 No.13：Page1759-64, 2018

関山健太郎

「Noninvasive Positive-Pressure Ventilation for Preeclampsia-Induced Pulmonary Edema: 3 Case Reports and a Literature Review.」

Case Rep Obstet Gynecol. 2018 Aug 15;2018:7274597. doi: 10.1155/2018/7274597. eCollection 2018.

Hamada K, Chigusa Y, Kondoh E, Ueda Y, Kawahara S, Mogami H, Horie A, Baba T, Mandai M.